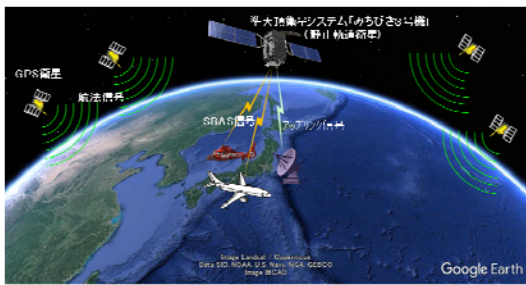


国土交通省	平成30年度当初予算額	平成31年度概算要求額	対前年度増減
宇宙開発利用関係予算	5,299百万円	6,656百万円	1,357百万円増(25.6%増)
うち準天頂衛星システム利活用促進の関係予算	1,155百万円	2,598百万円	1,443百万円増(125.0%増)

①準天頂衛星を利用した航空用の衛星航法システム(SBAS)による測位補強サービスの提供【要求額151百万円】

○航空用の衛星航法システムによる測位補強サービスの提供(平成32年度からのサービス開始に向け、平成28年9月から整備に着手)

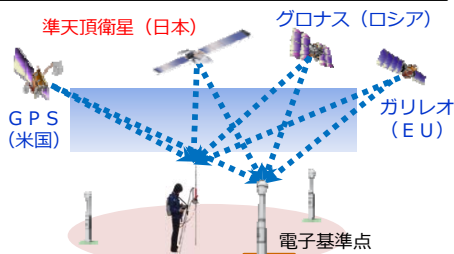


準天頂衛星を活用した航空用の衛星航法システム

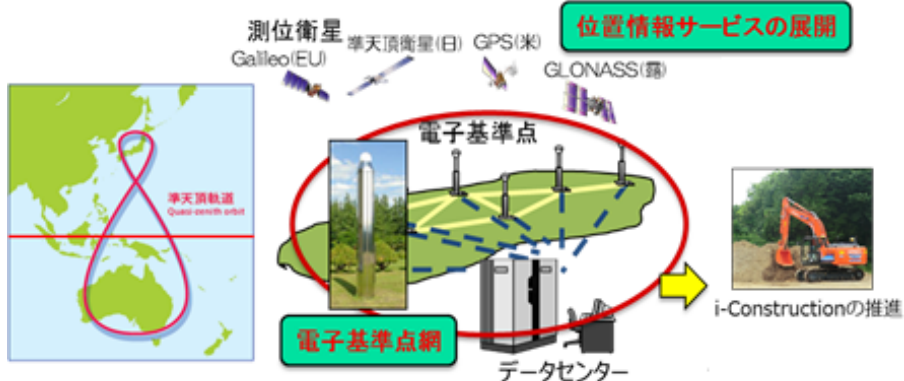
②人工衛星の測量分野への利活用(測位分野)【要求額788百万円】

○衛星測位を利用した電子基準点網の運用

○アジア地域における電子基準点網等の測位インフラ整備・高度化や準天頂衛星を活用した高精度測位技術、位置情報サービス等の国際展開



測量分野への利活用(電子基準点網の運用)



③新モビリティ・サービス推進事業【要求額1,500百万円】(新規要求)

○準天頂衛星を利用した通信・測位システム等の革新的技術・サービスを活用した新たなモビリティの実証実験の実施

都市・地方における新モビリティ・サービスのモデル構築

<新モビリティ・サービス例: MaaS>

- 利用者が**モードを横断**して、地域特性に応じ**検索・予約・決済を一括して行えるシステム**を構築



④ICTを活用した歩行者移動支援の普及促進に向けた取組の推進【要求額138百万円】

○高齢者や訪日外国人がストレスを感じることなく東京駅など複雑な構造となっている空間を円滑に移動・活動するための、高精度測位技術を活用した空間情報インフラの整備やサービスの実証



歩行者移動支援サービスのイメージ

⑤高精度測位技術を活用した船舶の自動離着岸システムに関する技術開発【要求額21百万円】

○信頼性の高い船舶位置情報の取得を可能とするための技術開発と自動操船技術とのインターフェースの検討により、高精度測位技術を活用した自動離着岸技術の確立

